

最強のコロナウイルス対策とは

地球上のほとんどの生物では、細胞内のミトコンドリアの働きによって摂取した栄養が全てATP（アデノシン三リン酸）というものに置き換えられ、自らの成長（細胞分裂）と活動のエネルギーとなります。我々人間も、摂取した食物は、ブドウ糖に置き換えられ、そのブドウ糖は、細胞内のミトコンドリアによって全身の機能保全と活動に必要なATPというエネルギー交換物質に変換されることで生命を維持しています。ですから、時に何日間絶食しても、つまり栄養分を新たに摂取できなくても、人は体内のタンパク質や脂肪を自動的に分解してブドウ糖に換え、それをミトコンドリアがATPに再生して自分の身体を維持する仕組み（生命維持機能）を生まれながらに授かっています。

しかし、ウイルス（細菌）はミトコンドリアを持たない単細胞生物ですから、自力で増殖する能力（エネルギーを作り出す能力）がありません。そのため、他の生物の細胞内に入り込んで寄生して増殖するのです。ウイルスが他の生物の細胞に入り込むには、細胞膜をこじ開ける必要があります。あらゆる生物の細胞は、侵入されない為に細胞膜というバリアーを頑丈に張ってウイルスの侵入を阻止するか、或いはもし侵入されても勝手に増殖されることを阻止する「保安装置」を持っています。

しかし、たまたま過労やストレスで体力が衰えていたり、持病等で健康を損ねていたりして、細胞の抵抗力や免疫力が低下していた人の場合、ウイルスは細胞のバリアーを破り細胞内に侵入してしまいます。今回のコロナウイルスの場合は、肺細胞に寄生します。

その場合は、脳から非常事態宣言が全身に発しられ、マクロファージ・好中球・NK細胞・B細胞・T細胞などで構成される体内の防衛機能（白血球）が緊急出動します。そして、活性酸素（ヒドロキシラジカル）という強力な攻撃兵器を使って、このウイルスに侵入され機能不全を起こした細胞そのものを攻撃して破壊します。

活性酸素がなぜそれほど強力かという、相手の細胞から生命維持に不可欠な電子を奪ってしまうからです。ウイルスに占領された細胞から電子を奪うことにより、その細胞は活動を停止しウイルス自体も死滅します。この電子を奪うことを「酸化する」、奪われることを「酸化される」といいます。電子を奪われて酸化された細胞の集合体、つまり肺は炎症を起こして機能不全に陥ります。これが肺炎です。肺炎はウイルスが起こすのではなく、活性酸素が肺の細胞を破壊してしまうことにより起きるのです。